ものづくりのまちで 地域に根ざした社会福祉法人を

生駒山の麓から河内平野に広がる東大阪市は、1968年に布施市・河内市・枚岡市の旧3市が合併して生まれた。2024年3月末現在の人口が47万7,684人（住民基本台帳）と、大阪市、堺市に次いで大阪府で第三位の人口を擁する中核市だ。65歳以上の割合を示す高齢化率は28.05%である。

西には関西の中心である大阪市、東は奈良県が位置し、生駒山系に抱かれ緑に囲まれた土地でもある。市内中心部には、ラグビーの聖地といわれる「東大阪市花園ラグビー場」がある。高速道路や鉄道が整備され、神戸、奈良、京都、新大阪、大阪国際空港、関西国際空港へも1時間以内でアクセスできる交通の要衝だ。

「ものづくりのまち」として知られ、技術力と創造性あふれる工場が立ち並ぶ。暮らしに欠かせない技術から最先端技術まで幅広く集積されている。

社会福祉法人由寿会は、地域で暮らす人が生まれてから死ぬまで笑顔で、そして幸せでいられるように、「皆を幸せに　皆が幸せに」を法人理念として、1997年に東大阪で設立された。1998年に特養として「アーバンケア島之内」を開設、続く2000年には「アーバンケア稲田」(特養）を、そして2005年に介護老人保健施設「アーバンケア」を開設した。現在では、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅、在宅サービス、保育サービスなど、11拠点39事業をこの地に展開する。

由井直子理事長は沿革についてこう話す。

「父は昭和30年代に診療所をここに開設し、私自身も東大阪で生まれ育ちました。当時は自宅の居間の隣が診察室で、高齢者の患者さんが多く、入院している方の食事は家でつくって運んでいました。父のような開業医が地域医療のすべてを担っていた時代です。私は子どものころから往診にもついていき、父の背中を見て育ちました。休みの日でも患者さんに呼ばれると駆けつけ、どんな人にも分け隔てなく接し、地域のために働く姿を見て、私も父のような医師になりたいと思ったのです」。

由井理事長

医師となり、急性期と慢性期を併せもつ総合病院に勤務し始めた由井理事長だが、そこには病気は治癒しているのに家族の都合で自宅に帰れない高齢者、当時社会的入院といわれていた人たちが多くいた。

「家に帰りたくても帰れない。ベッドで過ごすことで筋力が落ち、歩けなくなられた人が多くおられ、すごく疑問を感じました。そういう方たちのための終のすみかとして、心地よい居場所をつくりたいと思うようになったのです。そこでまず特養を開設しました。さらに老健施設を立ち上げた理由は、法人として多くの介護サービスを展開していたなかで、病院からご自宅に帰るまでの中間施設としての役割を担う施設の必要性を感じたからです」。

由井企画室長

菅原施設長

法人設立当初より一貫して 地域活動に力を注ぐ

しかしながら、いざ老健施設を立ち上げてみると、地域の人たちが特養との違いをよく理解しておらず、老健施設の本来の目的を周知するために苦労もあった。当初は老健施設創設期の国の中間施設という考えから逸脱して、特養的な老健施設が多くなっていた。地道に続けてきた地域活動が老健施設の周知と発展のために大きな原動力となった。

「法人は設立当初より『地域の灯台』として、地域の人の幸せを第一に考え、きめ細かいサービスを提供して住みやすい町をつくろうと、『アーバンケア友の会』という活動を展開してきました。当施設でもこの活動に力を入れ、地域にお住まいの高齢者はもちろんのこと、その家族と関係者との交流を深めてきたのです。健康教室や介護予防活動を通じて高齢者の方が健康になり、自分でなんでもできる力、暮らせる力を養っていただくことを目標に続けてきました」(由井理事長)。

同施設では他にも夏祭り、餅つき大会など、さまざまなイベントを開催。認知症の人を地域で見守る活動も行い、その度に多くの住民が参加しにぎわう。

地域活動はさらに求人募集にも功を奏した。

「ホームページなどで、これらの活動を紹介することによって、新卒の応募がぐんと増えました。自分もここで働いて地域の役に立ちたいと考える人が多く、地域活動と人材確保はリンクしていると感じています」と当法人の理事である由井聖太企画室長。毎年20名もの新卒者が同法人にコンスタントに入職する。

同施設の類型は、2018年の介護報酬改定以前まで加算型だったが、2019年12月に強化型を算定、さらに翌月の2020年1月には超強化型を算定している。

由井理事長はその経過をこう振り返る。

「稼働率が多少落ちてもいいから、類型を上げる方向でやっていこうと職員に伝えました。やはり国の方針に対して、私たちも同じ方向を向いていかないと、時代遅れになってしまいます。努力をして、なんとか高い類型をめざそうと考えました」。

加算型から一気に強化型へ移行することで、一番影響を受けたのはリハビリ課だ。週2回の入所者へのリハビリを、毎日集中的に行うようになり、リハビリ専門職のなかには変化についていけず戸惑いをみせるものもいた。理学療法士の西田将之さんは当時を次のように話す。

「私たちリハビリ専門職は入所部門に5名しかいなかったので、類型を上げていくには人数が足りず、まずはリハビリ課のメンバーを増やしてもらいました。当時は特養待機の利用者も多くいらして、リハビリを行ってもなかなか機能改善しない方も多かったのですが、それでもリハビリの回数を増やしていくことで、一人ひとりの職員の意識も次第に変わり、入所者のADLも

①河内国の一之宮として格式の高い「枚岡神社」。奈良の春日大社より創建が古いとされていて、東大阪市民からの信仰が厚い。②1929年にできた日本初のラグビー専用スタジアム「東大阪市花園ラグビー場」。ラグビーの聖地とされ、年末年始開催の「全国高等学校ラグビーフットボール大会」は冬の風物詩。③来年には創立100周年を迎える近畿大学。本校舎は東大阪市にあり、短期大学を含めると学生在籍数は西日本で一番。

①八戸ノ里駅近くに位置する「司馬遼太郎記念館」は作家・司馬遼太郎の自宅と、安藤忠雄設計の展示室がある。②人工衛星「まいど1号」は東大阪の町工場が一丸となって打ち上げ成功に寄与した。写真の「株式会社アオキ」もその企業の1つ。③世界最高性能を有する光学式プラネタリウム「ドリーム21」。最新の全天周デジタル映像システムを導入し、美しい星空と迫力ある映像を投映して子どもたちからも大人気。